

左側の写真の石碑は白龍大権現というくびの神で村の守護神として祭られてはいます。

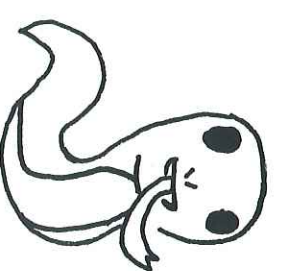
この石碑になつれる語で、白龍大権現尊の靈地として文永二年(850年前)清和原氏が「幡大菩薩」という名をあげて現在の平田にとまり、それらを印し、残したものが現在建っている、白龍大権現の石碑です。

白龍大権現の石碑にはくびの神が祭られていて、くびの神が平田の村中各家を守っているのです。これから平田の各家を守っている、おもうて、人々が幸せにいます。

くもふいたひつた。



2年B組5班
大人博貴、松崎雄志、高橋夏之
赤崎七海、前川恵美、坂本歩



白龍大権現

女坂 石の証文【殺生禁断の碑】

今から一八〇年ほど前の一八〇二年、嬉石昔は女坂から平田まで通る交通手段の人々はたき木を取る山火船を引き揚げる所として石の証文の道路が使われていたが、困っていました。これを聞いた佐野忠兵衛は交通きん人の発達によってこの道路を使ふ、人々の暮らしを助けるために、自分の持つ、人々はほとんどいなくなつてしましました。石山と船揚場を手に入れた。これに對して、謝意を表すため、正月(一日)の十六日と盆(七目)の十六日を殺生禁断の日と定め、世に伝えるために女坂に碑を建立しました。これが石の証文と言われている由来です。

今でも、殺生禁断の日の正月(一日)の十六日と盆(七目)の十六日は出漁を休め殺生はしていません。

十一月二十日に立指定文化財になりました。



八幡神社

上平田にある八幡神社は昔、現在の「上平田」の敷地の上にあり、その石碑は、現在、八幡神社の境内にあり、石碑の表面には「南無白龍大権現」と刻まれている。この石碑は、清和原氏の霊地として、文永二年(850年前)に建立された。この石碑は、現在、八幡神社の境内にあり、石碑の表面には「南無白龍大権現」と刻まれている。

また、八幡神社は、上平田の鎮守の神である。この神は、昔は女坂から平田まで通る交通手段の人々はたき木を取る山火船を引き揚げる所として石の証文の道路が使われていたが、困っていました。これを聞いた佐野忠兵衛は交通きん人の発達によってこの道路を使ふ、人々の暮らしを助けるために、自分の持つ、人々はほとんどいなくなつてしましました。石山と船揚場を手に入れた。これに對して、謝意を表すため、正月(一日)の十六日と盆(七目)の十六日を殺生禁断の日と定め、世に伝えるために女坂に碑を建立しました。これが石の証文と言われている由来です。

今でも、殺生禁断の日の正月(一日)の十六日と盆(七目)の十六日は出漁を休め殺生はしていません。

十一月二十日に立指定文化財になりました。

